



「なめんなよ！高校生を…」～

ニュース検定は真綿の狼煙

ニュース検定協会 普及グループ 中東 作蔵

昨年3月、40年間の高校教員生活を終え、東京でニュース検定の普及活動をしています。週3日のアルバイトですが、全国の高校の先生方へ電話で、また東京、埼玉、群馬など近県の高校を訪問し検定の案内をしています。

東京への片道3時間の通勤時間にも何とか慣れました。65歳までの再任用制度がないのは群馬県のみ。他県の先生方からも驚かれます。再三交渉したのですが…。もう私が教壇に立つことはありませんが、これは、私から高校生の主権者学習への「真綿の狼煙」です。

2015年。突然、「18歳選挙権」のシャワー。趣旨は賛成でも、現場は混乱しました。

それは、高校生の要求で実現したのでなく、多くの生徒は「面倒くさい」「どっちでもいい」「わからない」「学割なくなる？」「政治や選挙に関心ない」と消極的反対でした。生徒だけでなく、教職員、大人も自分たちの要求を自分たちで実現した体験に乏しい。さらに総務省・文科省編集のテキスト『私たちが拓く日本の未来』の一斉配布は、現場の混乱を拡大させました。

そんな折、全国高校PTA連合会佐野会長の「高校生の政治的な無関心は、そうさせてきた大人たちの責任であり、18歳選挙権を機会に大人たちも含めて子どもたちの主権者としての成長に寄与していこう」という趣旨の意見書は機知に富み現場を励ますものでした。

また、勉強のために参加したニュース検定協会のセミナーで、テキスト作成者の一人、立命館宇治高校の杉浦先生の請願権(憲法16条)の実践は、現実的な主権者学習であり、大変参考になりました。

今、高校生の中に知的格差が両極端に構造的に広がっています。A大臣の「新聞を読まない

若者は、みんな〇〇党の支持者」発言が示すように政治的な狙いを懸念する程です。

毎年、時事問題に無関心、社会科嫌いが進む16歳への最初の授業は、タイタニック号を例に、社会を見つめるソナーの役割を身につける大切を語ることから始めました。

再任用の安中総合高校での2年間、一年生の総合的な学習の中でニュース検定を全員で学習。就職6割の学校で受検者は20人程。職員室にきてアルバイトで得たお金を財布の中から差し出す姿はプチドラマの連続でした…。

「ナメンなよ！高校生を」と言いたい。

新聞を読まない子でも、きっかけを掴めば、自分の力でセンター試験レベルの2級も合格したぞ！それが、「検定」にアレルギーをもっていった私が、検定を生徒に勧めた原点です。

ニュース検定は、単なる知識の獲得ではなく、目まぐるしく進展する現代社会を読み解く「時事力」を養うことを目的に10年程前から始まりました。協会は、養老孟さんを名誉会長に、鳶信彦さん、池上彰さんなど著名なジャーナリストを理事とし、毎日新聞社はじめ地方30社の新聞社で構成。この4月からは朝日新聞社も加わりパワーアップしています。

おかげさまで年間5万人、累計の受検者も41万人を超え、全国で1000校余の高校が参加。県内でも22の大学・高校・中学・特別支援学校で活用いただいています。

今年選挙イヤーです。夏の参議院選挙では、消費税増税や憲法改正も争点となります。天皇の初の生前退位、5月からは「令和」に。9月のラグビーWカップ、2020年東京五輪・パラ五輪開催とビックイベントも続きます。

時代は、歴史的な情勢です。「社会を読み解く力」を養うために、ニュース検定やってみませんか。まずは6月23日前橋会場です。